

IV-209 吉野川環境整備に関する住民意識分析

徳島大学工学部 正員 定井 喜明
建設省徳島工事事務所 正員 ○振井 茂宏
NTT四国総支社 中富 恵光

1. はじめに

観光・レクリエーション・リゾートへの需要が、急増する趨勢のなかにあつて、ウォーターフロント、特に河川環境を時代のニーズに応じて開発・整備することが要請されるようになった。そこで、建設省徳島工事事務所では、徳島大学と協力して、吉野川に対する徳島市民の意識・要望・行動をアンケート調査し、その結果を分析して、吉野川の河川環境整備の指針を得んとしたものである。アンケート調査対象者は、徳島市在住の15才以上の個人とし、住民台帳から407名を無作為抽出した。昭和63年8月～9月に調査対象者に調査票を、訪問配布・訪問回収して、有効回収数357票、有効回収率87.7%を得た。調査票は、国際航業K.K.が作成したが、吉野川に対する考え方、評価、吉野川の利用内容と場所、吉野川の河川環境整備の要望内容とその優先順位、および個人属性など、実に45項目に及んだ。

2. 年令別の河川環境意識特性

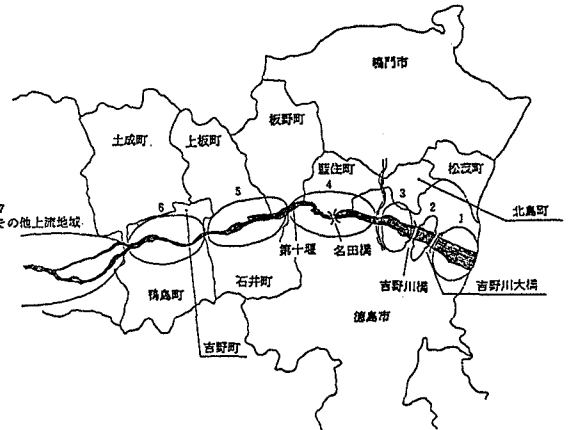
吉野川に対する意識・行動・要望の各項目と、個人の固有属性項目とのクロス集計分析(χ^2 検定)を行った結果、性別によっても、有意差の出る項目(アイテム・カテゴリー)が相当あったが、年令別による方が特に多くの有意なアイテム・カテゴリーがあることがわかった。そこで、年令別の河川環境意識・行動・要望・属性の特性を一覧表として示したのが表-1である。この表-1からわかるように、30才未満の人には、吉野川を「レクの間」として、スポーツ施設やコミュニティ広場を優先整備することを要望する人が多いといえる。また、30才代の人には「親水広場」、40才代の人には「自然と親しみ、情操をはぐくむ場」、さらに50才以上の人には、「あまり手を加えない自然の間」として、整備することを要望している人が多いことが示されている。従って、吉野川の河川環境整備をする場合、年令によって意識・行動・要望内容など相当異なるので、対象者の年令層に留意して、整備・開発をすすめる必要があると判断された。

表-1 年令別の河川環境意識特性

年 令	有意に多いアイテム: カテゴリー		有意水準
	アイテム	カテゴリー	
30歳未満 33.6%	郷土の誇り 同行利用者 要望整備 優先整備・保全 要望施設 子供のころの利用 職 業 居住年数 水のきれいな川である 堤防や護岸の美しい川である	「鴨門大橋」と「阿波踊り」を中心とする観光地 地域の友人・その他、スポーツ・趣味仲間 レクリエーションの間 スポーツ施設・コミュニティ広場 各種スポーツ施設 花火上げ・たこ上げ・野球・運動会 学生 昭和56年以降から どちらともいえない、どちらかといえば思わない・思わない 思わない・どちらかといえば思わない	0.5%以上
	同行利用者 要望施設 職 業 居住年数 水のきれいな川である 堤防や護岸の美しい川である	家族 親水広場 主婦・無職 昭和46～55年から、昭和56年以降から どちらかといえば思わない・思わない どちらともいえない、どちらかといえば思わない・思わない	0.5%以上
40歳代 19.8%	同行利用者 要望整備 子供のころの利用 職 業 居住年数 堤防や護岸の美しい川である	家族 自然と親しみ、情操をはぐくむ場 潮干狩り その他 昭和46～55年から どちらかといえば思う	0.5%以上
	郷土の誇り 同行利用者 要望整備 優先整備・保全 要望施設 子供のころの利用 職 業 居住年数 水のきれいな川である 堤防や護岸の美しい川である	雄大な自然景観をもつ「吉野川」 1人 あまり手を加えない自然に近い状態 豊かな情操を育む空間・河川景観の確保 自然緑地・自然観察広場 水泳 主婦・無職、その他 昭和30年以前から 思う 思う	0.5%以上

3. 吉野川の地域別の河川環境意識特性

吉野川において、流域住民が要望している整備内容を見ると、「自然と親しみ、情操をはぐくむ場」として整備を望んでいる人が32.8％と一番多く、次に「レクリエーションの場」として整備を望んでいる人が23.5％、「あまり手を加えない自然の場」が23.0％、「その他多目的空間」が20.7％となっていることがわかった。そこで、吉野川下流の地域区分によって、これら要望整備内容や利用状況が、どう異なってくるかをみるため、図－1に示したように、七つに分割した吉野川下流の地域区分と他の意識・行動・要望項目とのクロス集計分析した。さらに、地域区分を外的基準とする数量化理論Ⅱ類による判別分析を行った。そのうち数量化理論Ⅱ類分析の結果を示したのが、表－2である。



図－1 吉野川下流の地域区分

表－2 吉野川下流の地域別の河川環境意識特性

利用場所の区分	割合的に多い傾向があるか、“有意に多いといえる”カテゴリー		主要規定要因
	アイテム	カテゴリー	
河口～吉野川大橋 28.1%	①優先整備・保全 ②職 業 ③同行利用 ④吉野川に対する考え方 ⑤子供のころの利用・遊び	豊かな情操を育む空間・河川景観の確保 “学生” “地域の友人・その他” “心のやすらぎが得られる場” 潮干狩り	① ② ③ ④ ⑤
吉野川大橋～吉野川橋 33.3%	①優先整備・保全 ②吉野川に対する考え方 ③要望施設 ④同行利用 ⑤目 的	“スポーツ施設・コミュニティ広場” レクの時・スポーツの時 “親水広場” スポーツ・趣味仲間 陸上・水上スポーツ	① ②
吉野川橋～第十堰 24.0%	①目 的 ②居住年数 ③同行利用 ④居住距離	その他・レク的な利用目的では行かない 昭和56年以降から 1人 1000m未満	① ②

4. おわりに

表－2、表－1の分析結果、およびその他クロス集計分析結果、ならびに他の数量化理論Ⅱ類分析結果から、表－3に示したように、吉野川下流の地域区分別に河川環境整備の方向、その主要な利用者、および整備の施設内容が結論された。

〔参考文献〕

- 1) 松浦・島谷：水辺空間の魅力と創造、鹿島出版会、1987.12.
- 2) 河川環境管理財団：解説 河川環境、山海堂、1983.8.

表－3 吉野川下流の地域別河川環境整備指針

吉野川の地区区分	施設整備内容	景観・デザイン方向	主要な利用者
河口～吉野川大橋	散策・ジョギング・サイクリング施設 親水広場 ピクニック施設	心のやすらぎが得られる場	学生 スポーツ仲間 趣味仲間
吉野川大橋～吉野川橋	各種スポーツ施設 コミュニティ広場	活気・活動的な場	スポーツ仲間 趣味仲間
吉野川橋～第十堰	将来の需要を考え、適時レク施設を整備 親水広場 ピクニック施設	人工自然河川の場	家族 1人
第十堰より上流	自然観察施設	天然河川の場 雄大な景観の場	1人 家族